

## 光と影でつくる住宅

時間と共に変化する生活空間

指導教員

吉松秀樹教授

印

0BEB3216 関口 朋実

## 1. 問題意識

電車の中で周りの人が全員携帯電話を見て下を向いていた (fig.1)。私たちは「上を見上げる」ことが少なくなり、空や太陽の光を私たちは意識していないのではないか。



fig.1 携帯を見て下を見ている人。

## 2. 太陽＝生活の情報源

昔は農耕民族であったため太陽や空が生活をしていく上での情報源になっていた (fig.2)。だが都心部の建物の高密度化・高層化に伴い、光が遮断され私たちの時間感覚や生活習慣がおかしくなっている (fig.3)。



fig.2 昔は太陽や空を見ることで情報を得ていた。

fig.3 太陽によって定まらない生活。

## 3. スリットだから見える情報源

日本家屋は庇が長く横長の窓なので部屋の奥まで光が差し込まないようになっているが、それでは窓に近づかないと空が見えず見上げることが少ない (fig.4)。窓をスリットにすることで部屋の奥からでも自然と空が見えるので、見上げることが多くなると感じた (fig.5)。



fig.4 中にも空が見えない。

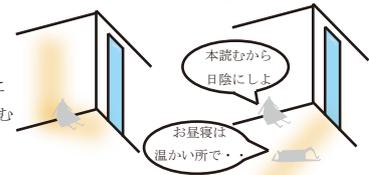
fig.5 スリットにすると空が見え見上げることが増える。

また、窓をスリットにすることで縦長に外の景色が切り取られ地面から空まで見えるので、中にも外にいるように感じられる。

## 4. 時間・季節によって変わる人の行動

スリットは光が絞られ細長く光の筋が室内に取り込めるので時間や季節により光の位置が変わるので、太陽が動いているのが感じられる (fig.6)。

fig.6 時間・季節によって光が差し込む位置が変わる。



## 5. 光と影で変化する空間

夫婦の住宅を提案する。スリットから光が差し込むことで (fig.7) 内部空間に複数の領域をつくる (fig.8)。四季や時間ごとに変化する光と影の空間により人は行動にあった場所へ移動する。変化する生活スタイルを送ることで、常に太陽を意識し自然を感じて生活ができるだろう。



fig.7 光のスリットができ内部空間に複数の領域ができる。

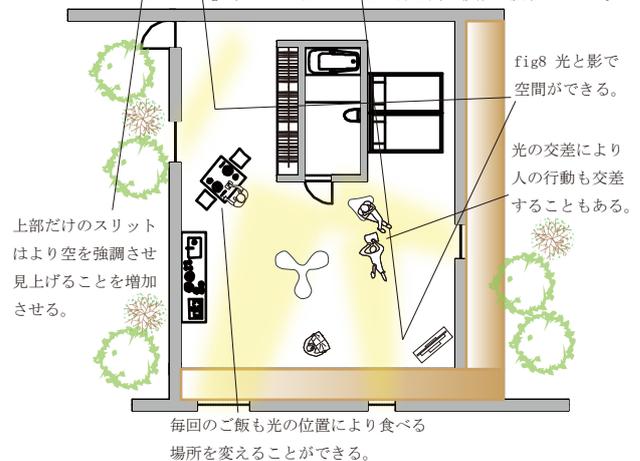


fig.8 光と影で空間ができる。

光の交差により人の行動も交差することもある。

毎回の食事でも光の位置により食べる場所を変えることができる。